

会議日時	R5 年 5 月 26 日 金 曜日 14 時 ~ 15 時									
出席者	自治会役員3名、 有度包括1名 職員2名									
場所	グループホーム草薙織音2階									
ご利用者の状況	1ユニット			2ユニット			合計			
	男性	4 名	平均年齢	83.2 歳	男性	0 名	平均年齢	歳	男性	4 名
	女性	5 名	平均年齢	83.8 歳	女性	9 名	平均年齢	89.1 歳	女性	14 名
							年齢	86.6 歳		
介護区分の分布	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均介護度			
	0 名	5 名	7 名	4 名	2 名	0 名	2.17			
ホームより連絡事項	(1) 近況報告									
	① 3月20日、左顔面痙攣の症状あり、主治医の往診お願いするも、梗塞の疑いで清水病院に救急搬送されました。MRIの検査結果、脳には異常なく顔面神経麻痺と診断されました。薬と目薬の処方入院ならず、ホームに戻っています。									
	② 3月23日、2階に88歳女性の方が入居されました。									
	③ 3月下旬から4月始めに、お花見ドライブを実施しました。今年は、桜の開花が早くで大慌てで企画を実施し、清水区の大沢川の桜を観て、良い気分転換になったかと思えます。									
	④ 5月6日22時12分、上部消化管出血の為2階女性入居者様がお亡くなりになりました。									
	⑤ 5月22日、2階に86歳女性の方が入居されました。									
	(2) 事故報告									
	① 92歳の女性入居者様が4月11日、夜間帯1時30分居室で転倒され草薙整形外科に受診。左肋骨にヒビが入っていると診断される。4月20日までは、痛みの訴えもほとんどなく、日常生活の動きもいつもと変わらず過ごされていましたが、4月22日朝、起きられないと言われ、草薙整形外科に受診。前回のヒビの箇所1本下の肋骨骨折だと診断されました。治療としては、バストバンド固定、痛み止めの薬処方、湿布です。入居者様の状態は、4月25日より食事・水分が摂れず脱水状態になると、薬が強効してしまう可能性がある為、点滴開始。本人吐きそうと言う訴えが毎日あり、食事がほとんど摂れない状態で、エンシュワ処方される。今は経腸栄養剤と水分と点滴で対応しています。									
	② 今回の事故原因分析として、転倒・打撲などの事故の発生はなかった為、職員の無理な離床介助や骨密度の低下により、骨折が原因となったかと思われます。									
	③ 再発防止対策として、センサーの設置場所を入居者様が起き上がる時に検知できるようベッド下からタンスの上に変更。入居者様の離床に関しては、本人のペースでお願いして無理な介助をしないようにします。									
(3) 夜間帯における防災訓練 参加者の方に、夜間帯の訓練を実際に見学してもらいました。										
① 【参加者からの意見等】 職員一人で介助・誘導は大変ですね。見守りは逃げた後どうするか。もっと具体的に決めた方がいいと思う。 【防災会の方から】 ・夜間帯の真っ暗な状態でスタッフがパニックにならないでほしい。 ・とにかく火事を起こさない。 ・初期消火の徹底(職員全員) ・起きたとしても最小限におさえるように。 ・想定外(震度5以上)の大きい地震が起きたときのことも考えておく。 ・乾燥機など出火しそうなものの把握。 ・訓練を各職員誰でも、できるように行ってほしい。										
その他	(4) その他									
	① 介護職員は不足していないか？質問あり。 日本ケアクオリティのグループホームでは、職員不足で採用活動していることを伝えています。 ② カンボジアから実習生が来て働いていて、実際どのような状況かの報告をしました。									
次回予定	令和 5 年 7 月 28 日 14 時 分より 報告者 GH草薙織音 名前 保田葉子									